

平成29年度第1回京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会 会議録

- 1 日 時 平成29年4月20日（木） 午後6時30分～午後8時30分
- 2 場 所 サンサ右京 大会議室1
- 3 出席委員 （五十音順）
奥野会長，
禹委員，植村委員，小倉委員，國重委員，小町委員，高林委員，竹田委員，橋本委員，
藤本委員，矢野委員，中村校長

4 次 第

（報告）

- (1) 平成28年度実践推進者表彰式及び人づくりフォーラムについて
- (2) 子ども若者はぐくみ局創設について
- (3) 人づくり21世紀委員会の再編について
- (4) 貧困家庭の子ども・青少年対策について
・京都市貧困家庭の子供・青少年対策に関する実施計画
- (5) 緊急の方策に係る動向について

（議題）

- (1) 憲章の普及啓発及び実践の推進にする平成29年度の取組（案）について
- (2) 平成29年度行動指針（案）について

5 会議録

京都障害児者親の会協議会事務局長である橋本雅寛委員，京都青年会議所副理事長である津田陽輔委員が新しく就任。

子ども若者はぐくみ局の創設に伴う人事異動により，子ども若者はぐくみ局長に久保敦，はぐくみ創造推進室長に西村潔，子ども若者未来部長に上田廣久，はぐくみ創造推進室企画総務課長に安見唯紀，はぐくみ創造推進室はぐくみ文化創造発信課長に山内浩平が就任。

（1）平成28年度実践推進表彰式及び人づくりフォーラムについて

事務局

資料1に基づき説明。

（2）子ども若者はぐくみ局創設について

事務局

資料2に基づき説明。

（3）人づくり21世紀委員会の再編について

事務局

資料3に基づき説明。

会長

幹事長としてこれまでも協力していましたが，一番は，子どものために何ができるかというところであり，原点に立ち返って活動していきたい。

(4) 貧困家庭の子ども・青少年対策について

事務局

資料4に基づき説明。

(5) 緊急の方策に係る動向について

事務局

資料5に基づき説明。

(6) 憲章の普及啓発及び実践の推進に関する平成29年度 of 取組(案)について

事務局

資料6・7・8に基づき説明。

委員

資料8の部会の設置について、これまでも表彰の選考等の作業量は多かったが、部会の規模としてはどれくらいの委員が関わる予定か。

事務局

表彰の選考では、委員の皆様にも、大量の応募書類の写しをお送りし、お忙しい中にも関わらず、短い期間で選考・採点いただくなど、大変な御負担をおかけした。

そこで、日頃から京都市はぐくみ憲章の実践推進のために活動されている人づくり21世紀委員会の活動と連携して進めていくことも検討したい。人づくり21世紀委員会の一部の方が委員になれるように部会を設置できれば。人数規模については、何人の規模で取り組んだらよいかは別途検討したい。

委員

子ども若者はぐくみ局が新設されたことも踏まえ、応募のあった団体にはなんらかの形で表彰するなど、表彰の基準自体を改めて検討してもよいのではないか。

会長

表彰制度自体を知らない団体もあるため、認知してもらうための工夫も必要かもしれない。

委員

子ども若者はぐくみ局ができたことで、今後は、子ども中心からもう少し年齢を上げた層の取組にも参加できるような環境を作れば良い。

委員

子ども若者はぐくみ局に「若者」という言葉が入ったこともあり、もっと若者に目が向くような事業を応援したり、多くの人に知ってもらいたい。表彰が、若者層にアプローチしている団体の応援につながるようになれば。

会長

人づくり21世紀委員会の常任幹事会でも、若者についてははものすごく難しいわりには事業的には少ないと議題になっていた。教育委員会・各団体様の皆様も色々と考えていき、そのような若者に関する取組等を紹介いただくことで広げていけるかと思う。「はぐくむ」という表現は子どもだけが対象と思われがちだが、そうではなく私たち大人もはぐくまれ、成長していこうという点をアピールしていく必要がある。

(7) 平成29年度行動指針(案)について

事務局

資料9・10・11に基づき説明。

委員

身近な「人とのつながり」や「人を信じる」ということをもっと大事にしていくべき。

京都は見守り隊活動が活発であり、地藏盆も各学区内で活発に展開されていて、「人とのつながり」や「絆」を伝統的に大事にしてきたまち。そういう意味で、「人が信じあう」ことを行動指針の中に入れていくことが大切だと思う。

委員

色々な制度や施策があるが、そういった地域の中での出会いというものが大切で、そういった出会いを経て次の支援者になるような方が多く、京都はぐくみ憲章を広めていける方たちに成長されていると感じている。

学区や町内などの小さい単位でつながれること、居場所も大事だが声をかけあえる人たちが増えることが大事であり、京都はぐくみ憲章を担っている方であることを自覚できることや市民力がアップするきっかけになれば良いし、上からではなく小さなことから支えていくようなテーマが良い。

委員

今年度のテーマでは、緊急の方策に関する行動の中でクローズアップされている「命を守る」と、はぐくみ局が開設されたことを機とした「はぐくみ」の2つを使うことがよいのでは。緊急の方策があると説明がしやすい。

委員

子どもの問題解決は人権問題の最後の課題と考えられる。それは子どもがものを言えない主体であるから。

行動指針の中にある「はぐくみ文化創造元年」という表現が素晴らしい。頑張ってもらいたい。そのはぐくむという視点で考えれば、子どもは主体的に伸びる力を持っているはずで、行動指針の緊急

の方策に関する行動の「守る」という部分だけでなく、そのような環境をどのように与えるのかを考える必要がある。憲章リーフレットの「さあはじめよう京都是ぐくみ憲章」ははぐくむための要素（自然環境・社会環境・人間関係など）を上手に表現している。これらの取組を実践する工夫を重ね、そのような状況で子どもたちの力を伸ばしていくことを考えないといけない。

委員

はぐくみ文化を創造するスタートの年ということで勢いがほしい。嫌な事件が多く、「～を守る」ということばも必要だが、マイナスなイメージがある。

個人的には、国際青年年の「はじめよう、今 見つめよう、未来」の言葉が忘れられない。「そうだ、京都行こう」ではないが、わくわくするような言葉がほしい。

委員

子どもの視座で考えることが重要だと考えており、「守ります」ばかりではなく、子どもは守られる権利を持っているということが前面に出ても良いのではないか。周りの大人が行動を起こさないとはいけなことは多いが、子どもたちの権利を守らないといけないことがその根底にあることを表現してほしい。

委員

「はぐくみ」とは子どもを育成していく観点から前向きなものであるため、暗いイメージではなく明るいイメージを前面に出したほうが良い。

事務局

活発に御議論いただき、感謝申し上げます。皆様からの御意見が活かせる様なテーマにしていきたい。

会長

「人づくり21世紀委員会」の新名称の検討においても、会議のたびに振り出しに戻る連続だったが、最終的には「京都是ぐくみネットワーク」に決定することができた。今年度から「今年度のテーマ」を作るということで、様々な視点を踏まえる必要があり、緊急の方策に対する行動あるいは、基本的な方策に関する件についての整合性をとる必要がある。

今後は、本日の議論を踏まえて正副会長と事務局で協議し、最終的な内容の確認については、正副会長に一任していただきたい。

本日は皆様色んな御意見をいただき感謝申し上げます。

(以上)